

「北九州での仕事について」

北九州支部 松延 康貴

4月1日の辞令により、私の配属先は北九州土木事務所（現北九州県土整備事務所）となった。高校まで大阪で育ち、大学も福岡市内であったため、北九州市は私にとって初めての町であった。北九州市について知っていることといえば、政令指定都市だということであり、大阪や福岡市ほどではないがそれなりに大きな町であることは確かだった。

また、北九州市のイメージはといえば、炭坑や工業地帯があるので性格の荒っぽい人たちがいっぱいいるというものだった。土木技師として採用された私にとって、住民や請負業者の人とのコミュニケーションは不可欠である。そのため、北九州でやっていけるかかなりの不安があった。

北九州土木事務所では、道路課維持係に配置された。高校で土木の分野については、一通り学んできた。しかし、それらが仕事上役に立つかといったら、そうはならないだろうと思っていた。案の定、私がこれまで学んできた知識は何一つ役に立っていない。何より、今自分にとって最も必要なのは土木に関する知識ではなく、最低限の礼儀作法と社会的なルールやマナーを習得することである。高校や中学ではクラブ活動をしていとし、大学での研究室内においても上下関係というものはあった。しかし、それらは年齢も割と近く、離れていても5～6才である。今のように自分の倍は生きた人たちと一緒に仕事することなどほとんどなかった。先輩はいても上司や施工業者のようなビジネスパートナーと話をする機会は初めてであった。一年経った今でも、電話応対などで話方が辿々しくなることがある。話方一つでも、学ぶべきことはたくさんある。敬語はもちろん、相手に伝わるようなプレゼンテーション能力などこれから一つ一つ習得していきたい。

道路維持係の仕事は、傷んだ道路の補修や交通の支障になるような雑草の除草等である。私は大学で都市緑化や里山の復元といった緑地に関することを学んできた。人間と植物の共生である。つまり、どんどん植物を植えてもっと町に緑を増やした方がいいよということである。そして今、道路課維持係にいて思うことは、植物は公共施設の敵であるということである。なぜなら、夏になるとあらゆる地面の隙間から雑草が生え、道路の見通しを悪くし、樹木は繁茂して信号や道路標識を覆い隠してしまうのである。そして何より、毎年それらを管理するために何千万という税金が投入されているのである。これでは、例え緑の効用があったにしても町にもっと緑を増やそうという気にはならない。これを機に県の土木技師としての一つの目標ができた。これからは、植物の繁茂などを想定した適正な街路樹の配置、管理しやすい植樹帯づくりが必要となる。私は都市緑化をすることのメリットを知っているので、その良さを住民に理解してもらうためにもこれらの問題について

学び、植樹計画のプロフェッショナルになれるようがんばりたい。そして、より快適な道路空間作りに貢献していきたいと思う。

この一年間で、一番の思い出はやはりダントツで7月24日の豪雨だ。その日は、前日から降り続いた雨により管内のあちこちで冠水が起こった。所内は現状を確認に行った職員や業者からの電話が鳴り響き、事務所全体をあげての対応に慌ただしくなっていた。私にとってはこの日が初めての水害待機の日であり、夜通しで対応するはずだった。しかし、夜10時に入った落石の連絡に対応するため、現場へ急行した私は岩と電柱に指をはさみ負傷するという失態を犯してしまった。このため、私はあえなく負傷退場となり、すぐに家に帰ることとなった。この怪我により、現場に同行した職員の方や本来私が残るべきだった水害待機に私の代わりに出てくれた職員の方等多くの方々に迷惑をかける事となった。この経験から今後はもっと慎重に行動し、どのように対応するのか冷静に判断できるようにならなければならないと思う。

私はこの一年間で多くの人と関わってきた。私が北九州に来た当初に持っていたイメージとは違い、請負業者の人は優しい人が多く、いろいろと教えてもらっている。また、住民の方の中には、外で作業しているときに「大変ですね。」と声をかけてくれる人もいる。私はまだ、一番下の立場で知識もなく、住民の疑問や要望にすぐに応えることはできないが、これから少しずつ勉強し、多くの事業に関わることで、一つでも住民の要望に応えられるようになりたいと思う。

※北九州県土整備事務所 道路課